地域版 北薩

川内支局
川内市山之口町5013-1
☎0996-23-2338
通信部
川薩
北薩
出水
長島

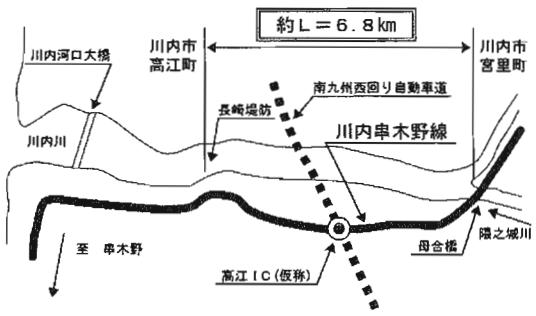
工事ニュース、団体・企業ニュース、催し物などは支局、通信部へご連絡下さい。

概略設計を近く発注

川内串木野線の説明会

川内土木

県川内土木事務所は16、17日、県道43号川内串木野線（約6・8㎞）の道路改築計画説明会を開催。16日、川内市宮里町の宮里集会場には地区住民ら約50人が参加した。



説明会区間

司会は切通幸生川内市都市計画課長。新武博同市建設部長が「地域の皆さんの意見を計画に反映させていただけるよう期待する」と冒頭挨拶した。

福森靜所長は「地域の声を設計に生かすために集まっていただいた。貴重なご意見をぜひいただきたい」と述べ、12月までに概略設計を完了。工事については「危ない個所や先にやれるところから着手したい」等と話した。

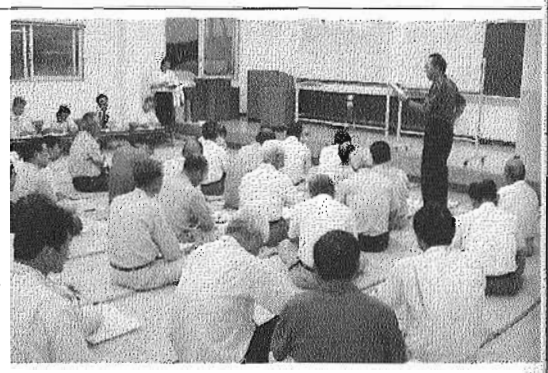
川内串木野線は、川内市街地から川内川河口、川内港、原子力発電所を経由して串木野までを結ぶ幹線道路で、通学・通勤、路線バス、大型車両等の通行量も多い。

しかし一部区間で歩道未設置や歩行者、自転車通行の危険個所、道路線形も悪いことから地域から道路改良・改築の要望は早くからあった。

また同路線には、将来、南九州西回り自動車道高江IC（仮称）設置も計画されており、交通量の増加が見込まれることから改築・歩道設置を計画したもの。

計画によると改築・歩道設置区間は延長約6・8㌔。このうち同市宮里町母合橋から八間川に架かる仮屋橋までの延長約4・3㌔については改築事業で進め、設計速度50㌔、2車線（幅員3・25m）、路肩0・75㍍、車道幅員8㍍を計画。両側に歩道を設置する。

残りの同市高江町長崎堤防までの延長約2・6㌔区間のうち歩道未設置個所については現在、交通安全対策事業で約400㍍（片側）を施工中。


早期着工の要望が相次いだ説明会＝川内市の高江集会場で

16年度約100㍍の歩道設置を計画している。今後のスケジュールは説明会終了後、ただちに概略設計を発注、16年内設計完了を目指す。工事着手は未定。

3月30日、川内市内で開催の「川内隈之城道路」計画説明会（鹿児島国道事務所主催）では「川内隈之城道路」（隈之城IC～高江IC～川内IC、延長約10㎞）の供用開始予定について「用地取得から10年ぐらい」と説明している。川内串木野線はこの道路と対になるもので、住民からは早期事業着手の意見が相次いだ。

現場の創意工夫

全工事期間中測定機を常設

振動・騒音発生に配慮

ヤマグチ

鹿児島メディアの協力で設置した測定装置＝市来町の現場

建設工事を進める過程で施工者は、地域住民に対してどんな配慮や工夫をしているのか。ヤマグチ㈱（山口克典社長、姶良郡牧園町）の「鹿児島3号重信地区改良（第3工区）工事」現場から事例を紹介する。

工事場所は日置郡市来町重信地区内。周辺には80数戸の民家が点在。現在、西回り自動車道建設に伴う改良工事が進められている。地区住民の話によれば3工区は「荒平」の地名がある通り、「1枚の岩で山ができたようなところ」。工事はこの岩盤を重機等で砕き、山を開削するのが主な仕事。そこで工事中の振動・騒音をどう軽減するかが、現場事務所の最大のテーマに据えられた。

田中満現場代理人は検討会を開き、工事中の全期間、振動・騒音レベルの常時監視を行い、周辺住宅への影響を把握するとともに、デジタル表示装置（警報回転灯付き）を設置することを提案。環境測定機器のリース会社・㈱鹿児島メディアの協力をもらいこの5月から現場に設置した。

作業場所から常時監視できるところに同装置を設置。規定値は振動75dB、騒音85dB。規定値以上になった場合は赤色・黄色の回転灯で知らせる。回転灯が回ると、重機の稼動を一時中止。原因を検討し、処置方法について監理技術者が重機のオペに伝える。次に重機の稼動を再開し、測定機で再モニタリング調査を実施。改善が見られればそのまま作業を続行。できなければ再度原因の検討を行い、規定値以下になるまで作業方法の検討を行うというもの。

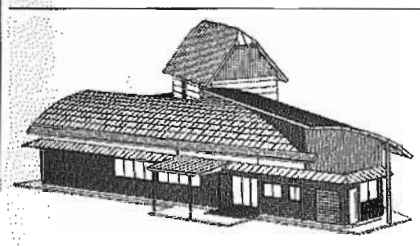
現場直近でポンカン農家を営む主婦は「そういえば今のところ振動・騒音は少ないようです。いつも主人と、協力できるところは協力して、早く完成してもらうことが先決、と話しています。環境測定もそうでしょうが、何よりも現場で働く人たちの人柄や対応がいいのが一番」と話していた。

吉村眼科医院（出水市）建設

施工は道添建設に決定

出水市街地西部で建設が計画されていた「吉村眼科医院」（仮称）が近く着工する。施工は㈱道添建設。設計は吉永建築設計事務所（吉永親所長、川内市）。

同病院は医院建築の原点を求めて設計された。「医院建築の原点とは病める人が五感の癒しとなる空間とサービス業としての施設の充実、そしてスタッフに機能性と快適な空間を提供することにある。患者と共有する空間の目標は3S（清潔・整理・静寂）である。総じて質の高い建築を目指すことにある」（設計コメントから）。


吉村眼科医院の完成予想図

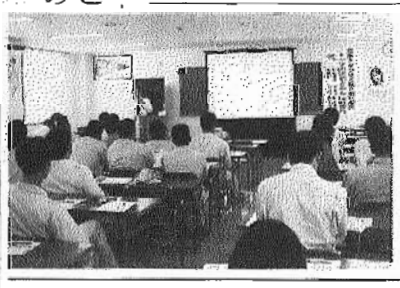
建築主は吉村清利氏。建設場所は出水市上知識町。建物はS造2階建300平方㍍。17年1月の完成予定。

建設業協会川内支部

電子納品対応で勉強会

建設業協会川内支部（田代藤夫支部長）は16日、川内市の川内建設会館で会員を対象に「電子納品」についての勉強会を開いた。

同支部では15年度国交省の「電子納品全面実施」に伴い、昨年7月から会員企業の電子化を促進するため勉強会を実施、今回で3回目になる。指導は鹿児島ゼロックス㈱建設ソリューション課。電子納品の動向や納品対象書類、電子納品の流れなどについて講義した。


電子納品の流れなどを学ぶ会員＝川内市の川内建設会館で

「旧道敷」をテーマに

29日、意見交換会

㈱鹿児島建設新聞川内支局は29日午後1時30分から、川内市国際交流センターで「旧道敷」の再利用をテーマに意見交換会を開く。

出席者は県川内土木事務所と北薩造園協会（田中高徳会長）、NPO法人さとやま（松元孝雄理事長）、NPO法人インフラネット（宮脇弘明代表理事）。

北薩造園協会は、5年前から旧道敷を活用してボランティアで「修景緑地」を3カ所設置、会員らが定期的に維持管理や花の植替えなどの活動を続けている。

また、2NPO法人は合同で一般市民にも呼び掛け旧道敷に不法投棄されたごみ等の回収や清掃作業を通して、不法投棄防止とモラル向上のための活動を展開中。

意見交換を通して不法投棄防止のため現在、封鎖されている「旧道敷」の在り方について検討する。

士会川薩支部青年・女性部

九州大会で2位入賞

県建築士会川薩支部青年・女性部（吉満光二郎部長）は12日、長崎県佐世保市で開かれた九州ブロック建築士研究集会・長崎大会に本県代表として出場、見事2位に入賞した。発表テーマは会員自らも踏破した「薩摩街道」。

吉満部長（川内殖産㈱）は「1カ月の準備期間の間に、多くの方々のサポートをいただき大変勉強になり、悔いのない大会参加でした。各県の地域社会への取り組みはすばらしく、われわれにとっては刺激を受けた大会でした」と話した。

大会終了後くつろぐ参加者面々＝佐世保市の西海パールシーセンターで（写真提供：原田誠副部長、㈱植村組）

また、福山征志副部長（有福山組）は「各県のレベルが高いので、発表前から上位入賞はあきらめていました。九州ブロックで2位までは全国大会に出場できると思っていましたので、決まったときは皆でバンザイをしました。結局は行けなかったが、いい夢を見させてもらいました」と少し悔しそう。

石塚勝郎川内市教育長は「若いあなた方の社会貢献活動は優勝こそできなかったが、九州全体で2位と認められたわけで心から敬意を表する」と最大限の祝辞を寄せた。